

ポケツト ジャーナル



★ 映画発祥地神戸に 記念碑を建てよう！

神戸っ子が活動写真を初めて観た神港俱楽部（現在の川重保健会館）中央区花隈町七）のあとに、映画を愛するファンの手で記念碑を建てようという運動が、十二月一日映画の日にスタートした。ちょうどその日



淀川長治さんを囲んで

講演したた
に来る神
評論家の
淀川長治
さん大喜
びで賛同
して、初
めて一万円を募金箱に、続
いてファンも。

「私の父親が初めて神港俱
楽部で明治二十九年に上映
されたキネスコードを観て
いるのです。世界の映画發
祥地ブルックリンにも記念
碑はなかったので、素晴
しい企画私も日本中の映画フ
アンに呼びかけましょう」



県南庁舎

3月のオーブンが楽しみ。
神戸市が緑化基金制度を
設置

と大張り切り。

昭和六十年には九十年目

を迎える映画の日をめざし
て、五〇〇万円を目標にレ
ベルのあるいい碑を創ろう

と「建てる会」は燃えてい
る。連絡先／月刊神戸っ子
078 (31) 2246 / シネマハ
ウス 078 (31) 4090

★ 県南庁舎が「迎賓館」に

「県政資料館」に

県南庁舎は、フランス・
ルネサンス様式を取り入れ

明治35年に建てられた。
それから80年、中央のド
ームが戦災で焼け、復興さ

れた時に三角屋根になつた
こと以外
は当時の
ままだが
本庁舎と
しての役
割は果た
せないと

いうことで、県としては敷

地が一等地なので移転して
跡地に生活文化ホールの建
設を検討していた。ところ



田中 淡氏

「中国の住宅
歴史と現

運動

誕生日
ありがとう

が、県下の建築家、文化人
グループからの強い要望に
より現状のまま永久保存さ
れることになった。中庭を
改築して大会議室にし、迎
賓館や県政資料館として利
用する計画。58年度から改
築工事にかかっているが、
円形屋根も復元され、60年

3月のオーブンが楽しみ。

神戸市は将来の「ガーデンシティKOBÉ」を目指して、市民や事業者に緑化基金の寄付を呼びかけてい
る。神戸の市街地は、緑化率では目標の3割にしか達成していない。市では接道部分の植樹、ブロック塀を生垣に変えるときの助成などに役立てたいとしている。

お問い合わせは神戸市中央区加納町6丁目5-1 神戸市立木局公園緑地部計画課 電話 331-8181 (内) 4221

A 草の根福祉運動の徹底

さうらに一人一人へと本運動の精神をより多くの人へと、運動の輪の広がりを

B 「ちえおくれの話」の頃

七万冊突破の好評の啓発図書、

さらに全国各地で愛読者の拡大

C 啓発紙「運動のしおり・増刊号」

の充実、誰にでも気軽に愛読される啓発紙への説皮を

D 啓発図書「小さな輪・大きな輪」

今後も、学校教育・社会教育など幅広く利用を呼びかけ

E 啓発バトルの完成

昨年から制作に取組んで、無料貸出しを開始

F 古切手収集運動の拡大

全国各地の地域社会ボランティアのつながりを強め、一人一人のボランティアの主体的な実践の積み重ねを

誕生日ありがとうございます

神戸市中央区御幸通八一六
神戸国際会館一階の郵便局の隣

第二五二八一六内線三一六

661

神戸市中央区御幸通八一六
神戸国際会館一階の郵便局の隣

NEWS

SPECIAL MESSAGE

A formal dining room with a large floral arrangement on the table.

落ち着いた雰囲気のセンター街店

● 美容室エリザベスで
メイクアップ教室
ヘヤー＆メイクサロ
ン・美容室エリザベス
で、10月の第1～第3
水曜の3回にわたって、メ
イクアップ教室が開かれた
烟尾宇多子さんを講師に
お肌のお手入れからシャド
ウやリップのつけ方まで3
回でメイクのすべてを学ぶ
ことができる。

OPEN

●ディーリーム「POLO」がセンター街に
元町・大丸前に続い
て、3店舗目になる「P
OLO」(新店)

ヒータイムをくつろぐのに
は最適だ。

ヒータイムをくつろぐのに
は最適だ。

●ディーラーム「POLO」がセンター街にて、元町・大丸前に続いて、3店舗目になる「POLO」センター街店が、11月12日オープンした。内装も落ちついた雰囲気で



FAIR

●
装い

の秋・みよしやから
の格ひ上すじ

1000

●ミキモトの社内報が
全国雑誌社内報に

FLASH

●ミキモトの社内報が
全国推薦社内報に
真珠と宝石のミキモト社内報
「さるん・ど・みきもと」
が、日本経営者団体連盟の社

秋
また、
加賀染振興会指定作家による加賀貢
禪の展示、「ぬり絵」、フォール＆ワイ
ンターファーレクションも併催
された。
絹の装いをお客様に届け続けて、
70余年のみやしやの信念、自負
が伝わってくるような展示会であっ
た。

のムードが漂う会場
の装いと
してのき
ものと帶
を一〇〇
万円均一
の特別価
格で奉仕

FAIR
大丸前のみよしやが、11月
11、12、13日の3日間、神戸
ボートターミナルホールで、
『箱の路ひとすじ』をテーマ
に、謝恩染織逸品大処分市を開催。
婚礼の準備、秋冬の装い、迎春用

真珠と宝石のミキモト社内報「さるん・ど・みきもど」が、日本経営者団体連盟の社内報セントー主催、「83年度全国推薦社内報選定行事」で、9年連続9回目の受賞を果たした。

SPOT

●リザ・サロンで
初のコンサート

初のコンサート
11月24、25の両日、
リザ・サロン神戸本店

●リザ・サロンで
初のコンサート
11月24、25の両日、
リザ・サロン神戸本店
ヨーロッパフロアで、
「松平佳子」ピアノコンサート
が行われた。これは、
ファッショントンを通して豊か
な生活を提案するというリ

ザのテーマに基づいて行われた初のコンサートである。松平さんは、フランス・クリダ女史の門下生で、ヨーロッパを中心的に活躍しており、リストなどを得意とし

当日のプログラムは、モーツアルト、メンデルスゾーン

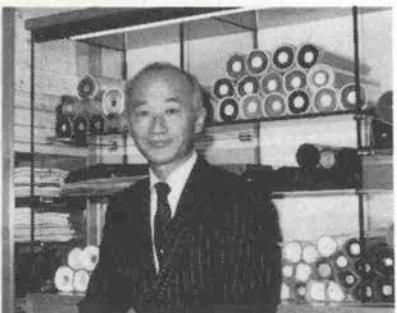


リザ・サロン神戸本店で

OPEN!



PEOPLE <16>



●きものは日本が世界に誇る民族衣裳
福田桂三さんくちんがら屋・取締役営業部長>

昭和43年11月、全国の呉服屋の中で初めて中小企業庁長官賞を受賞した「ちんがら屋」に勤めて22年、神戸生まれ神戸育ちの福田さん。「きものを着ることで、時間と心のゆとりをもってほしい。きものを着ると不思議に気持ちの落ちつきができますよ。」と語る。流行を追わず、時代を重ねても着続けることのできるオリジナル商品を扱っている。

●美とロマンを届ける
田崎ビルがオープン
『真珠の殿堂』田崎ビル
が、ポートアイランド・
ファッショントータウンにオ
ープンした。『企业文化』
を伝えたいとの田崎俊作
社長の考えが具体化され
たもので、1・2階の「田
崎真珠ギャラリー」、1
階の「エスパス・ビジュ
ウ」、2階の田崎ホール
「エスパス・メディア」
などパブリック・スペア
が十分にとられている。
ギャラリーでは、同社
の作品が豊富に展示され
販売もしている。エスパ
ス・ビジュウは、真珠や
宝石の美をさまざまな手
法で表現・構成する展示
空間だ。

□田崎真珠・本社
(3 0 2) 3 3 2 1

TOPICS

●新年あけまして
おめでとうございます
神戸百店会一同

●オリエンタルホテル
では、3月31日まで、
「第2回、全国地酒ま
つり」を行っています。グル
メシティ全店で、全国47都道
府県から地酒50余銘柄、郷土
のうまい肴のいろいろ40数種
を取り揃えています。詳しく
は、(3 1) 8 1 1 へ。

●ふぐ・てんぶら・お刺しの
味噌漬では、心のかよう送り物
にびたりの味噌漬を用意し
ています。★銀鶴4切入23
を取扱っています。詳しく
は、(3 1) 8 1 1 へ。

まで。

●11月26日に神戸国際会館大

ホールで恒例となった「第11

回コウヘファッショニ

ング教室」を開きます。詳

しくは、(3 9 1) 6 8 0 6

まで。

●各メーカーのオリジナ

ルファッショングが次々と紹介

された。このショミに「アミ

リアも参加し、子供のモデル

を使って大好評でした。

PRESENT CORNER

▲約1mのスリムな
カレンダー



●田崎真珠から

マベパールペンダントを
真珠の美とロマンを届ける田
崎真珠より虹色の輝きのマベパ
ールペンダントをプレゼント。
3/4まで真円のマベパールを使
っており、よりとやかで清楚
な雰囲気を生み出します。
¥25,000を2名様に。

●永田良介商店から

カレンダーを

大丸前の永田良介商店から、
木製のカレンダーをプレゼント
お部屋のアクセサリーの1つと
して、いつまでも使うことので
きる便利なカレンダーです。
¥4,000を2名様に。
(A・ふくろう B・木)

応募方法 ●葉書に住所、氏名、電話番号、希
望する商品名を明記の上、神戸市中央区東町
店舗にプレゼント係までご応募下さい。1月20
日消印まで有効です。当選者は神戸っ子か
ら当選葉書を発送。葉書を持ってお店まで、
プレゼントを受け取りに出かけ下さい。

仏印では戦争は戦争にならなかつた

小島輝正（松蔭女子学院大学教授）VS 多田智満子（詩人）

ですか。

小島 あんまり深い理由はないん

ですよね（笑）。僕の出た旧制高校（府立高校、現都立大）はフランス語がなくて英語とドイツ語やつてた。でも語学の授業ついていやでね、英文と独文だけは絶対やるま

いと思っていたんです。

多田 私も第二外国語はいや応なしにドイツ語取つてました。大体私も語学っていうのがダメで……笑）。

小島 教室でやる語学って面白くないんですよ。それに当時の東大

の英文や独文には偉い先生たちがいてね、英文ならシェークスピア、独文ならゲーテでなくちやいけないっていう人ばかり。そんなのはかなわないと思ってフランス文学やろうと思った。高校2年頃からアテネフランセへ通つてフランス語勉強したんです。

多田 そうですか。でも当時の男子学生が文学部にいくつていうのは、よくよく文学好きか、どこへも入れない



「仏軍の大将つかまえにいったらニコニコして出てくる」小島輝正さん

あと先の考えもなく仏文へ
あと先の考えもなく仏文へ
多田 小島さんはお若い頃から文学少年だったんでしょ
うね。
小島 でしたね。中学頃から文学づいてた。
多田 特にフランス文学を始めたのはどうしてなん

か、どちらかですよね。

小島 そうそう。英文はまだ入試があったけど、独文や仏文なんて無試験だったから、高校さえ卒業していれば誰でも入学できた。文学部は英文、国文以外はほとんど定員不足でね、要するに皆、卒業後、就職口のあるところへいくんです。仏文なんて出ても教師の口もない。要するに僕はあと先の考えもなく仏文へいったわけです(笑)。

多田 専攻は何でしたか。

小島 卒論はレイモン・ラディゲです。一番作品が少いから。その前はヴァルテールをやつてた。でも好きで読んだのはシャルル・フィリップやウジエース・ダビでした。

多田 卒業されてから、アラゴンなんか翻訳されているところをみると、やはり少し左翼がかつていらしたのかしら?

小島 いや、高校や大学の頃はむしろ逆でした。右翼とまではいきませんが。愛読したのは亀井勝一郎でした

し、どちらかというと政治的、思想的なものは嫌いでしたね。ところで当時の仏文の先生方は非常にリベラルですね、これが仕合わせでした。小林秀雄なんかもそういうところから出てきた人でね、自由な雰囲気があった。講義にあまり出なくとも良かっただしね。

多田 理想的な環境ですね。出席なんて取らないわけ。

小島 そう。でも赤門附近にはいつもうろうろしていてね、だべったり、酒込んだりしていた。だいたい僕は昭和17年3月卒業のはずだったんですが、戦争が始まつて、昭和16年12月に無理矢理卒業させられた。卒論をラディゲに切りかえたのもそのためなんですよ。ヴァルテールじやとも間に合わなかつた。12月1日に徴兵検査があつて、いわゆる第二乙、一応合格なんですね、そして8日には開戦でしょ。ものの半年か一年すると兵隊にとられるっていう。大変でしたよ。

多田 仏印のフランス軍は全然戦争やる気なし

小島 僕は卒業前に嫁さんもらつ

てたし、子供もいたので、どこか就職しなくちゃいけないと思ってテレビ局や雑誌社なんかに当たつていたんですよ。でも内地にいる限り、いつ兵隊にとられるか分らない。それはかなわんと思って、友人のつてで南洋貿易会という、

当時の仏印やタイと日本との貿易をコントロールする半官半民の会社に勤めることにしたんです。その会社は仏印のハノイとサイゴンに出張所があつて、しばらくするところへ行かせてくれるつてい。外地へ行けば兵隊にはとられないし、フランス語も使える、こ



「戦争もその位にしておけばいいんですよ」多田智満子さん



れはいい、と思つた。で、昭和17年の秋に仏印のハノイにいきました。

多田 でもベトナムは当時フランスの植民地で、日本は敵国側でしよう。

小島 日本は仏印に進入はしたんですが、占領はしてなかつた。一応主権はフランス側が握つていて、日本軍は例えれば中国などが攻めてきた時にフランスの主権を守つてやるという形をとつていたんです。

多田 仏印は場所柄、戦略的価値があつたのかしら。

小島 日本軍はシンガポールやビルマなどにも行つてしまつたから、補給線の確保や軍事的な連絡のためにおさえたんでしようね。鉱物資源もあつたし。

多田 小島さんは具体的にどういうお仕事を？

小島 当時仏印に沢山あつた日本の貿易商社の統制をしていました。輸出できる物資の数量などを調べて、内地に打電したりね。でも昭和18、19年頃になると、もう船もないから何も入つてこない。

多田 仏印で面白かったことなどなにがありましたか？

小島 まあ、だいたいにおいて毎晩飲んだくれましたね(笑)。仏印でできる安物のラムがあつたし、一応ビルもあつた。上等なのは日本から入つたサントリーの角瓶。あれはめったに手に入らなかつたけどね。

多田 仏印での戦況はいかがでしたか。

小島 例えれば蘭印(インドネシア)やビルマなどのように戦争でひどいことやつてた所の日本兵は命からがら逃

げないといけなかつたようですが、仏印では戦争らしい戦争をしていませんからベトナム人も日本人のことをそう悪く思つてなかつた。日本軍が仏印を本格的に占領したのは敗戦の半年ほど前でした。

多田 それまではフランス軍と平和共存していたんですか？

小島 ええ。でも戦局が怪しくなつて20年3月にちょっと市街戦をやつて占領したわけです。でもフランス軍は始めからやる気がないんですよね。僕もそのときは通訳に徴用されたから、フランス軍の大将をつかまえにくく、というんで同行したんですよ。少しは抵抗してピストルくらいふりまわすからと思つて覚悟して行つたんですが、なんのことはない、ニコニコして出てきた(笑)。

多田 戦争もその位にしておけばいいんですね。巨大な武器をもちだすと、ろくなことはない。

およそ収容所の概念に反する収容所

多田 終戦後はどうなさつたんですか。

小島 仏印で収容所に入つたんですよ。兵隊も民間人も。フランス軍のかわりに中国軍が収容所の管理をしていました。その中国軍が国境に近い雲南の田舎兵隊ですね、例えれば、その中国軍の将軍が日本軍の捕虜を集めて演説するんですが、初めて扩声器を使つたんでしようね、自分の声にびっくりして逃げかかつたり(笑)。乗用車も初めて乗つたらしく、フカフカのクッションに驚いてとび上つたり…。そんな話がいくらでもありました

ね。

多田 じゃあ、収容所でも楽だったでしょうね。

小島 そりや楽でしたよ。収容所といつても強制的に働かされることもなくって、毎日、酒飲んだり、マージャンしたりしてぶらぶらしてました。収容所の出入りも、

身分証明書さえ見せれば自由でした。門限は一応あったけどね。

多田 そんな気楽な収容所が世の中にあるのですか。もしこれがソ連だったら、帰れたかどうかも分りませんわ。

小島 ほんとに、シベリアだったら大変でした。結局収容所暮らしをしたのは7か月くらいでした。

ベトナム人が中国人とフランス人を嫌うわけ

多田 ベトナムでは当時やはり、フランス語ができないと不便だったんでしょうね。

小島 そうですね、ただ、もともとベトナムは長い間、中国の植民地でしたから、中国とのつき合いも長いんですね。それにベトナム人は賢明でね、仮に子供が3人いたら、それぞれにフランス語、中国語、日本が入つてからは日本語をやらせる。どこの民族に支配されても、必ず誰かがうまくやっているようにしているんです。

多田 日本の戦国時代にも、それに良く似たことがありましたね。関ヶ原のような天下分け目の戦のときは、親は東軍、子は西軍というふうに、どっちが負けても生き残れるようにして。

小島 そうですね。でもベトナム人は内心では非常に中

国人ぎらい、フランス人ぎらいでした。とくに嫌っているのが中国人でした。なにしろ、ずっと支配されていたから。

多田 人種的には近いんでしょうけれどね。

小島 北ベトナムはね。中国人支配の頃は、ベトナムでも漢字使ってたんですけど、フランス人がやってきて、全部ローマ字化してしまった。東洋の国で、あれほど徹底的にローマ字化された国語はないですね。しかし、そのフランス人より中国人をきらっていた。なにしろ、ハイでもどこでも金持ちは皆、華僑でしょう。目抜き通りはザーッと華僑の店が占めてる。そりや腹が立つでしょう。次に嫌ったのがフランス人。これは全くの異人種だからむりもないけど。それにフランス人の威張り方と日本人なんかの威張り方と全然違うからね。

多田 どう違っていますの？

小島 例えば、フランス人の女性はベトナム人のボーリーの前で、平気で素っ裸になつたりする。つまり相手を全然人間と思っていない、虫ケラだと思ってるんですね。これが日本人だと、相手がなにかへマをすると、バカヤローなんて言つてどなつて頭の一つぐらい小突いたりするけど、あとはやさしい（笑）。すまなかつたな、なんていつて給料余計にやつたりする。フランス人は絶対そういうことはしませんね。ボーリーがお皿一枚割つても、ハングル一枚失くしても、給料からどんどんさし引いちやう。そうすると結局、給料やらないですむんですよ。それを平気でやつて。相手が食えようと食えまいと知つたことじゃない。虫ケラですから。日本人にはそんな



アコギなことできないんですね。

多田 日本では女中さんが何か割つたからといって、給

料からその分差し引くことはありませんもの。

小島 しかし、ヨーロッパ人はそれを当然のこととしてやるんですよね。それに日本は戦争中の6年ぐらいしか仏印にいませんでしたし、本当に植民地化したわけじや



戦争時代の事になると話にも熱が入ります。

ありませんから、そう悪いこともできませんでしたね。

アラゴンの小説で食いつないだ下訳時代

多田 小島さんがアラゴンに凝りだしたのはいつ頃からなんですか。

小島 引揚げで東京に帰つてから、田宮虎彦が編集長を

やつていた「文明」という雑誌社に勤めたんですが、これが一年半ぐらいでつぶれてね、次もまた出版社に入つたんですが、これまたつぶれた。それで仕方なく自分でフランス語の下訳などして食いつないでいたんです。中には自分の名前で翻訳出したのもありますけど。その下訳してた頃、同じ下訳の仲間に安東次男がいて、彼が「アラゴンの『レ・コミュニスト』という長い小説がある、これで当分食えそうだ」というので、「それ！それ！」っていってやつたのが始まり。あの頃はレジスター

ンス詩人としてのアラゴンの名前がよく売れてた時で、最初はこの本もよく売れました。安東は昔、左翼でね、僕も東京にいるころから、神戸に来て、第一次安保の頃までは完全に左翼でしたね。

多田 それが、段々さめてきちやつた。

小島 というか、幻想が失せてきたんです。

多田 この頃、小島さんつて、とても教育者的情熱を燃やしていらっしゃるようだと思うのですが。市民の学校の校長をなさつたり…。

小島 そんな意識はないなあ(笑)。でもほたからみるとそう見えるかもしれません。自分で、もうすこし自分のことにかまければ良かつたかな、とは思つているんですよ。

多田 たとえばどんなことを?

小島 小説書いたり、要するにもつと自分勝手なことをした方がよかつたな。

多田 小島さんは非常に文章がお上手なのに、本にならないから…。

小島 僕はやりだすと凝る方だからね。始めはたいしたきつかけでなくとも、やりだすと、やれるとここまでやらないきや気がすまない。だから、さわらぬ神にたりなしで、たとえば、詩なら多田さんのすばらしい詩を読者として読ませていただいてる方が気楽なんですよ(笑)。でもこれからは、もう少し自分のことをしようと思つてはいるんです。

△六甲／ブルーマウンテンにて△

謹・賀・新・年



▲瀬戸の石焼き一富士二鷹三茄子図

初春のお慶びを申しあげます
昭和59年元旦
古陶器の逸品に季節の風味を盛って、今年も一層、精進
いたす所存でございます。倍旧のお引き立てを賜わりま
すように何卒よろしくお願ひ申しあげます。 〈店主〉



山形や 稲久

神戸市東灘区本山北町3-11 本山市場東 (阪急岡本・国鉄摂津本山各駅から徒歩3分)
電話 (078) 452-2905 午後5時-10時 月曜休
(新春は6日から営業させていただきます)

第八回 神戸文学賞受賞作品

新連載小説〈1〉



昔の眼

絵／貝原六一

ほとんど客のいない終バスが通り過ぎた。外から、つり皮が疲れ切った老人の性器のようにだらりとぶら下がっているのが見える。運転手だって疲れて家路を急いでいるのであろう。車のほとんど通らぬ夜の道を、客を乗せる意志などどこかに置き去りにしてしまったような猛スピードで鈍重なうなりをあげて走り去つて行く。道に面した商店のシャッターはおりており、民家の明りはあまりなく、酒や煙草やジュースの自動販売機の白い明りだけが、まわりの人通りとは無関係に、うつろな光を放っている。中に人が住んで家族の語らいのある光なら、もととわびしかつたろうが、投入されたコインに答えるしか能のない機械に、妙な親しみを感じた。店と自動販売機が並んでいたら俺は、ためらうことなく自動販売機の方を利用するだろう。店番の人間の反応におびえなくてすむからだ。

俺はポケットから財布を取り出し、中をのぞいて二枚の一万円札があるのを確認した。さっきから何度もことをくり返しているであろうか。ここへ来て十五分くらいの間に少なくとも七八回は財布を出しては一万円札が二枚あるのを確かめていた。

一回一万元。部屋代は買い手の負担。週刊誌で読んだ情報によれば御休憩が二千円から四千円。御泊まりが四千円から八千円くらい。特殊なしきけのある部屋ならその倍。二万円はそれらに必要な資金であった。それか

ら左ポケットにある小さな一箱。中に手を入れふたをあけ、指をさし入れ、つまんでみて、袋の中の潤滑剤のぬるっとした感触で、コンドームがきちんと存在しているのに安心をする。全部で六枚。二枚重ねにすれば、少しは長持ちをするというし、あわよくば、二回目三回目もある自動販売機で買ったものだ。

体中の血が頭のてっぺんに集まり、手足はもちろん、あごの辺りまで骨だけになつたみたいで、自分が本当に地面に両足をつけて立っているのかどうかすらわからなかつた。頭以外に血が残っている唯一の場所は、両足のつけ根にある例の物だけであつた。情緒も何もなく、しびれのきれた足みたいに硬直していた。

女とキスはおろか、手も握ったこともない男が女を買おうというのだ。しかも、相手は制服の女子高生なのだ。制服はどうでもよいのだが、まだ十代であるというのが重要であった。私立の女子高で講師をしている大学院にいる先輩からの情報だった。何でも町で女を買おうとした四十くらいの男が、相手が制服のままさらわれたのに驚いてしまい、説教をして、タクシーに乗せ、家の近所まで送り届け、翌日になつて学校にその旨、連絡して来たらしい。単独ではなく、何人かのグループがあるらしく、目的は洋服を買う金を得るためだ、という。しかも、その学校の生徒でなければ知るはずのない、併設

大学への推せん入学の選考にもれたというような話までしていたらしい。とにかく、かなり信憑性のある話だった。

自動販売機でワンカップの日本酒とマムシドリンクを

買った。ビールは、小便に行きたくなつたら困ると思つたからだ。一合の酒は一気にのどを通り過ぎ、食道に流れ込み、胃の入口あたりがかつとあつくなつた。手のひらを口へ持つて行き、はあつと息を吐き出し匂いをかいだ。そうしておいて、今度は、葉緑素入りのガムを取り出してかんだ。歯の裏に舌でおしつけては、はがし、甘味がなくなり、あごがつかれるまでかんだ。手に持つた洋書のページをぱらぱらとくつた。カーソンマッカラーズの The Ballad of The Sad Café だった。これから女を買おうというのに見栄を張るのもおかしな話だが、身につけた物に何一つアカスケたものがないのも恥ずかしかつたので、相手が高校生ということもあり、こんなものを持ってきてしまったのだ。

しかし、本当に制服の女はあらわれるのだろうか。どういう手続きをふむのか、ポン引きが介在しているのか、個人的な流しで直接交渉なのか、喫茶店のような所にたむろしているのか、場所が大体、この辺りだ、とう以外に何の手がかりもないのだ。この場所につつ立つて一時間近くになるが、近くを通り過ぎた女と言えば、銭湯帰りの、寝巻きの上に直接ガウンを着て頭にタオルを巻いた女がくわえ煙草をして、自動販売機でビールを買って行つただけであった。

そうこうしているうちに警ら中の巡査から不審訊問を受けてしまつた。身分を訊ねられ、大学の学生だと言うと、余計にあしまれ交番に連れて行かれてしまつた。日本人の平均をはるかにこえた体つきのせいか、最初はおつかなびつくりだった警官も、俺が無抵抗なのに段々と居丈高になつてきた。当節、革マル、中革の内ゲバ騒ぎが新聞に載らぬ日が一日としてないのだから、学生というのは住所身分不定の浮浪者よりも始末におえなかつたようだ。

ここ一年くらい散髪はおろか、ひげものばし放題にしていたのがさらに印象を悪くしたようだ。父が大阪のある大学の学長であることを告げても、

「そんな大学、本当にあるのか」

とか、

「そういう奴の息子にかぎっておかしいのだ」

とか言われてしまった。学生運動などと言うもの、テレビで全共闘運動をながめ、安田講堂事件に胸をおどらせたのがやつとで、秋田明大というのが明治大学の秋田分校のことではなく、日大の学生の名前であることを最近になって知つたくらいで、そのはしぐれと思われたことは、かえつて光榮なくらいであった。俺は、高校の一時期、確かにゼンキョートーとかゼンガクレンとかいうのになつて知つたくらいで、そのはしぐれと思われたことには、あこがれたことがあつた。しかし、アサマサンソーカーといふやうやく解放されることになった。

翌日、叔父にあやまりに行つた。叔父は牛の寄生虫の研究をしていて、四十近くになるのに未だ独身で、五十万円以上もかけて部品を買い集め、自分で組み立てた自動車に乗つて役所に通つてゐた。昨夜、何をしていて警官につかまつたのか本当のことなど言えるはずがなかつたので、様々な言い訳を必死に創作していた。いっぽしの前科者の気分だった。しかし、その点については何もふれられず、

「たまには散髪に行けよ」

と二千円ほどくれた。国家公務員上級職と言つても、東大出ではないし、研究職であったので、あらゆることに無頓着であった。寄生虫を調べるために血液をぬきとつた牛は、焼却処分にするらしいが、そこからヒレ肉を切り除し、冷蔵庫に入れていた。

「ヒレいらないか」

寄生虫を調べたあと肉はさすがに気持ちが悪いので遠慮した。ヒレ肉の包みには家庭厨房用焼却分と書いてあった。

「どうに致しましようか」
「適当に」
「長さは」
「普通」
「ひげは」
「残しといて」
「ちょっとそろえましょうか」
「プロにまかせるわ」

「普通」
「ひげは」
「お客様、大阪」
「いや、神戸やねん」
「学生さんですか」
「丁大」
「あそこ、難しいんだろ」
「さあね」

「俺ね、正直、お客様見た時、どうしようかと思ったよ。たいてい、この道二十年というやつで、一目見て、どんなヘアースタイルがお望みなのか、わかるんだけどね。お客様の場合はさっぱりだったね。前に一に連人わからない人がいたけど、中年の方は、話を聞くうちの方の人と全く同じがお望みだつてね。わかった時には、もう、びっくりしたよ」

鏡の中をのぞきながら店内を見渡していると、パーマをあてている男も結構いて、奥さんと若い男の子二人と、女の子とが洗髪と、バーマを担当しているようだつた隣りの席の客が洗髪をはじめた。若い女の子がシャンプーをしていた。麻のブラウスの上から、白いブラジャーの線がすけて見えていた。年は俺よりもさらに若く、まだ高校生くらいにしか見えなかつた。化粧つ氣の全くない長身で、仕事中のせいか無表情であったが、いわゆる美人顔であった。どうせなら、あの子にシャンプーをしてもらひたかった。マスターの手の動きと、隣席の洗髪の進行具合とを比べてみたが、残念なことに、俺の

翌日、俺は散髪に出かけた。メンズ・カット・ショツブなどと、しゃれた名がついた店だった。せっかくの二千円だと思い、あちこち歩きまわつたが、さすがに美容院は、恥ずかしいのでここにした。普通なら赤白青のアメみたいなマークの出た散髪屋に行くのだが今日は特別だつた。扉を押して入ると、いらっしゃい、という声とともに、店中の視線が俺に集まつた。昔、俺がよく受けた視線に少し似ていた。子供を相手にする時のやさしい言葉の中に突然入り込んで来る、物体として俺をながめ観察する視線。俺を客体化して、何者であるかの判断を下そうとする視線。

髪の仕上がりの方方が、やや早いようであった。

にきびのあとのある赤ら顔に、ちりちりのパーマをあてた小柄な男の子が、俺の椅子を半回転させ、背もたれをたおし、頭を洗いはじめた。眼前に、にきびの火口を見るのは快よい光景ではなかった。フィリピンの留学生が、男の美容師はおカマだ、と言っていた言葉が思い出され、俺は目をつむった。フィリピン人の学生が英語の中で、そこだけOKAMAと日本語で言つたから、よけいに生々しかつた。

しばらく、そのまま眼をつむついて、されるがままにしていた。少し眠くなってきたな、と思った頃、椅子の背が起きあがり、また半回転した。眼を開くと、前に鏡があり、その中に俺の頭をタオルでつんんだ、あの子の顔があつた。眼は自分の手もとを見つめて鏡の中の俺の眼と合わそうとなかった。タオルでごしごしとこす



られる度に、この頃、少したるみ気味の頬がゆれているひげ面はあまり見られたものではなかつた。流れのないよどみの水のようだつた。

「スワンです。コーヒー持つて来ました」

「奥においで。あとで返しに行きますから」と、マスターが櫛とはさみを持って最後の仕上げをした「ちょっときれいにやりすぎたかな」

「たまには、かめへんよ」

店を出る時、ちらつと女の子の方を見ると別の客の頭にカーラーを巻きつけていた。ひさしひりの散髪で頭がさっぱりとして、秋の風が首すじに冷たく感じられた。商店街の中を歩いていると、来る時には眼につかなかつた炭火焙煎珈琲スワンと描かれた看板が眼についた。ここに来たら、もしかして彼女に会えるかもわからんなあ、飲み屋やつたら通いつめる手もあるけど散髪に通つてもしやあないしな、そんなことを思いながら通りすぎた。昔から、しばしば通りがかりの女に片想いをして來たが、今度もそうだらうか。たつた一回の散髪で女にひかれた自分がおかしくなつてしまつた。女を買おうとしたのは東京に出て來たら、まず童貞をしてやろうという念願を仲々果せずにいて、あせつたためで、実はそこは、ごく純情なのだ。立て看がかつてのなごりで、そこかしこに立つてゐる大学の構内に、社会性も政治性も帶びることなく、オブジェとしての価値もありはしないエリート意識の漂よう女子学生達にはいや気がさしていだ。かと言つて、俺自身も、女を買うのに洋書を持って出かけるという点で、女子学生達と同類であり、タオルで顔をかくした匿名志向の活動家達を、つとめて無視するようになつてゐた。俺はビールのロング・カンと鶏の空揚げを買って下宿に帰り、飯をたいだ。

身長百八十五センチ、体重八十キロ。入学式のために大学の構内に入るなりラグビー部とアメリカン・フット

ボーグ部から、かなりしつこい勧説を受けた。体だけは大きくて期待の新人であったが、動作も鈍く、扁平足の見かけだおしなのだ。おまけに眼も悪い。確かに腕力だけは自信があったが、両手で林檎を二つに割ることがで

きてもあまり意味がなかった。ラグビー部に仮入部することになり新人歓迎のコンバでは、上級生からつがれるビールをことごとく飲みほし、林檎割りの特技を見せたりして、すぐにレギュラーだ、などとおだてられたが、練習がはじまると一週間で音をあげて退部してしまった。練習前のダッショウだけでダウンしてしまったのだ。自分でも情けなかった。ある時期から月に一センチずつ背が伸びはじめ、それが三年ほど続いて、身長の伸びが止まると今度は体重がものすごい勢いで増えはじめた。一体、この百八十五センチの体の中には何がつまっているのだろうか。

まず第一に自分が平凡であることに甘んじることで、きぬ不満。無名であることと平凡の混同。何が非凡であるか理解できぬ、ばかさかげん。宇宙ほどの大きさがあり、芥子粒ほどの実行力もない性欲。未だに皮をかぶり無理やり頭をむき出しにすると異臭を放ち、赤顔を苦し気に充血させる性器。いたずらな勃起と無意味な射精。女が欲しいことを直接表現できぬ焦慮。死ぬは易し、生きるは難しなどという、はなはだ実証的でない哲学。出口をふさがれた怒りが表出したにきび。指でつぶすことが唯一の昇華法と信じる狂気。にきび治療薬に対する懷疑。教会のミサの最中にすら血をはらむ。ニースをしっかりとおさえつけてかくすジーパンの欺瞞。……そしてこれら諸々のことが、俺という人格を最も具体的に真実に近く表わしているのではないかという不安。

実質のない、ただ巨大なだけの虚ろな箱の中に、それぞれにやはり虚ろな泡状のものが充满しているのだ。空虚さの充満とでも言えよいか、その中味は、できたり、こわれたり、くつついたり、大小様々に変化して、とらえどころがなかった。しかし、その容積だけは、い

ぜんとして実質をともなうことなしに、どんどんと膨脹し続けてきたのだ。そして、これからも膨脹は続いているのであろうか。風船ならいつかはじける時が来るのだろうが、風船の張りつめた緊張もなかった。ついこないだまで、世の中には体制と反体制という善玉と悪玉が存在していたのだが、例の安田トリデの崩壊をきっかけに、

今はもうどこかに失なわれてしまった。俺は、あくまで応援する観客の立場でしかいなかつたのだが、眼前で行なわれているでき事の中で善玉と悪玉の役割りがありまいになってしまい、自分の意識がどちらに属しているのかさえもわからないのだ。これは、俺だけの問題なのか、時代全体の問題なのか、よくはわからないが、自分なりに考えてみると、あの、希望に燃えていたはずの中学一年の時、二つの眼鏡を右足で一つ、左足で一つぶみつぶした日からではなかつたか、という気がする。俺にとっては、一つの屈辱を捨てて、新たな屈辱と苦痛を得た日でもあった。

俺は、老人のように、ぶ厚いレンズの眼鏡を二つ持つて中学に入学した。その二つを外を歩く時と勉強をする時とで使いわけていた。俺の眼は、右眼が遠視と乱視、左眼が近視と乱視、生まれついた時は内斜視で、途中、右眼が弱視となり、後になつて複視まで出るという眼科の学術標本のような眼であった。世間では遠眼がきくとされているはずの遠視の右眼が、実際には、物の形がからうじて判別できる程度しか見えない弱視であった。外界の事象を認識するのに、きわめて不便な眼であった。地球上の大半の人がながめている、常識的な世界とは全く異った映像が俺を支配していく、彼らと喜怒哀楽を共にすることができないのだ。そういう意識に、俺はずっとがんじがらめにされていた。

本年も よろしく お願い申しあげます

京料理のゆかしさ趣きを 芦屋 **わらびの室** で



「ハイカラな芦屋で日本情緒豊かなものいいですね。小槌町の名も縁起がよくてめでたいこと」と華道専正池坊と日本礼道小笠原流煎茶宗家の家元・諸泉祐陽先生が弟子の大久保佐希子さんとお茶室で新春の一服を。※茶室もございますので、お茶会にご利用いただけます。

京料理

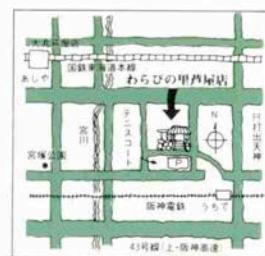
芦屋店

わらびの室

芦屋市打出小槌町30番地 (0797) 23・5666 営業時間午前11時～午後10時 <駐車場有り>

京都本店・京都市山科区小山中島町28番地 (075) 591・0911

新宿店・東京都新宿区西新宿2の4の1 新宿NSビル1F (03) 349・8789



“風と一緒に走りたい”

ローラーグループ

ROLLER CATS

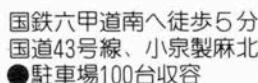
神戸山手女子短期大学
ローラースケート同好会

キャプテン

段 めぐみ

私たちのグループの発足は80年。数えて4代目のキャプテンに昨年の夏、選ばれ、只今頑張っています。大学へ入学した時、クラブ紹介でこの同好会を知り、入部しました。

練習日は毎週水曜日。大学の講義が終った者から、各自がそれぞれローラー六甲に集まり2時間程度すべります。1年生の正式部員は、現在24名で、今はステップができる人が数人いる程度ですが、ローラーで踊れる位にまでうまくなりたいと全員はりきっています。また、新入部員の入部も大歓迎です。(写真中央顧問片山宏之先生)



營業時間 AM10:00~PM10:00

日曜・祝日 AM9:00～PM10:00

貸 靴 料 ● 100 円

滑走料 ●一般・学生…1,000円
(入場料含む) ●中・高生……800円
●大学生……………600円

●小学生 600円
(平日午後一色6人 1日銀(3時間))

